

硫黄島

タイワンホウキガニ
昭和硫黄島A南側の海底には、火山性ガスが噴出し温水が湧く「海底温泉」と呼ぶ特殊な環境があるB。この場所で二〇一一年にタイワンホウキガニが発見された。二〇〇〇年に台湾北部の亀山島で発見された甲長二cmほどの赤い蟹で、ハサミの先のホウキ状の毛が名前の由来となる。なお白い体毛のようなものはバクテリアによるもの。

発見箇所は、台湾、昭和硫黄島、悪石島の海底温泉のみ。特殊な環境に住む理由を探るため二〇二二年から鹿児島大学水産学部の鈴木廣志教授(二〇一九年定年退職)の研究グループが調査を始め、二〇二五年からかごしま水族館が飼育実験などを行った。

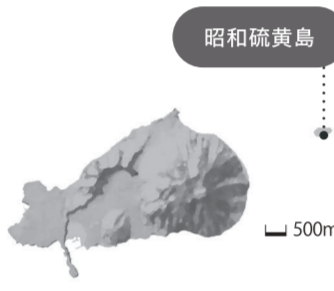
二〇二五年には昭和硫黄島の水深約七mの海底で蟹の生態を観察した。海底温泉は魚をまれに見るが、生き物の気配はほぼない。しかし、タイワンホウキガニは岩や砂の上、温水が湧く穴などいたる所にいたC。

捕獲したところ錦江湾の海水で長期飼育ができた。餌は、オキアミ、魚肉など。特別な餌はいらない。火山ガスの成分で栄養を得るわけでもなく、熱源を避ける傾向から、他の生物との棲み分けで海底温泉にいる可能性がある。生息範囲を台湾から昭和硫黄島まで、どのように広げたかなど謎も多い。

思い出話

「タイワンホウキガニもそうですが、生き物はどんな場所でもケンカせず上手に棲み分けて共存します。生き物から共存の大切さを学びました。」

鹿児島市在住六〇代男性



3

日	月	火	水	木	金	土
27	28	1 旧 1/29	2 旧 1/30	3 旧 2/1	4 旧 2/2	5 旧 2/3
6 旧 2/4	7 旧 2/5	8 旧 2/6	9 旧 2/7	10 旧 2/8	11 旧 2/9	12 旧 2/10
13 旧 2/11	14 旧 2/12	15 旧 2/13	16 旧 2/14	17 旧 2/15	18 旧 2/16	19 旧 2/17
20 旧 2/18	21 旧 2/19 春分の日	22 旧 2/20	23 旧 2/21	24 旧 2/22	25 旧 2/23	26 旧 2/24
27 旧 2/25	28 旧 2/26	29 旧 2/27	30 旧 2/28	31 旧 2/29	1	2